

サクセス・ストーリー

2017年 1月

官民一体の ESD “岡山モデル”が人と街に変革をもたらす

By 宇佐美 里圭 (Rika Usami)

岡山県岡山市は人口およそ72万人、面積790km²ほどの政令指定都市だ。東京からは西へおよそ700キロ、新幹線で3時間半程度のところにある。北部の山から2つの一級河川が市内を流れ、瀬戸内海沿岸の干拓地は米や野菜、果物の一大生産地でもある。台風や地震など自然災害が少なく日照時間が長いことから、国内でも住みやすい場所として知られている。この岡山市が実は、世界でも屈指の“ESD先進地域”であることを知っている人は少ないかもしれない。



© Okayama ESD Promotion Commission

2016年、岡山市が推進する、「岡山ESDプロジェクト」が、「持続可能な開発のための教育（ESD）」に貢献したとして、「ユネスコ／日本ESD賞」に選ばれた。プロジェクトの最大の特徴は、学校、行政、企業、NGOなどの市民グループが一体となって取り組んでいること。関係する団体は260を超え、子どもからお年寄りまで、市民が環境保全や国際理解、防災などを目的に日々活動している。「岡山モデル」と呼ばれるこの仕組みはいかに生まれ、どう普及してきたのだろうか。ESD推進協議会会長で、岡山大学副学長の阿部宏史さん（62）はこう話す。



「岡山市では、学校教育と社会での実践を組み合わせ、地域全体で持続可能な社会を作ろうとしています。14年に岡山市でユネスコ世界大会が行われたとき、市役所にESD推進課が作られ、財政面でも人材面でも市が全面的にバックアップする体制ができました」

NGOなどの活動も重要だが、それだけでは広がりに限界がある。行政が積極的に動いたことで、企業や学校、市民グループを巻き込んで大きなムーブメントになったのだ。

岡山市のESD教育は小学校から始まる。16年、第7回 ESD大賞（Education For Sustainable Development Award）の小学校賞を受賞した岡山市立第三藤田小学校は、3年次から毎週ESDをテーマにした授業が行われている。3年次のテーマは「藤田のお宝をさがそう」。子どもたちは近くの農家を訪問し、1年間を通して藤田地区の“人”という宝物に出会っていく。4年次では「ゴミって何？」というテーマのもと、地域の環境やごみのリサイクルなどについて学び、5年次では「藤田に農業は必要か？」というテーマで、地元のJA（Japan Agricultural Cooperatives）とともに農業を学んだり、実際に田植えを体験したりする。6

年次では「幸せって何？」という大きなテーマで視野を海外へ向け、NP0法人ハート・オブ・ゴールド（Heart of Gold）との協働で海外の学校とスカイプで交流をしたり、寄付や募金活動を行っている。

大枠のテーマは藤田地区3つの小学校で共通だが、指導内容はそれぞれの地域によって異なる。09年から同小学校でESD担当をしている板倉真由美さん（49）は、ここ数年で成果を実感しているという。

「子どもたちは毎朝田んぼの中を歩いて学校まで来ますが、何を作っているのかほとんど関心がありません。でも、ESDの授業を受けると意識が大きく変わるんです。お米の種類に興味を持ったり、誰が作ったのか聞いてきたりします。一昨年は、授業を受けた後に将来農家を継ぎたいという子も出てきたんですよ」

板倉さんが意識しているのは、考えたことを実際の行動に結びつけること。

「最後は『今の自分たちでできることは何だろう』と話し合うのですが、昨年は農業を学んだ後、ある子が『藤田地区の食材を使ってお弁当を作りたい』と提案してきました。そこで、近くの高校の家政科の生徒に協力してもらい、一緒に地域の特産品でお弁当を作ったんです」



“農業男子”というキャッチコピーでポスターを描き、JAに貼らせてもらったり、藤田のお米をアピールするCMを作ったこともある。CMはみんなで台本を書き、子どもたちが出演した。板倉さんが実際にビデオカメラをまわして編集し、完成した作品はしばらく岡山市のホームページに掲載された。

「考えたことが実際に実現できると自信につながります。何かを学んだら、必ず自分たちができる行動に落とし込むことが大事です」

学校の授業ではなく、「ユネスコ部」として自主的にESD活動をしている若者たちもいる。ユネスコスクール加盟校である岡山県立岡山一宮高校では、14年にユネスコ部が発足。フェアトレードを学びながら、フェアトレード商品を販売したり、イベントでブースを出したりすることが活動の柱だ。外部団体との交流もさかんで、CSV（Creating Shared Value）活動に積極的なイオンリテール（株）とは、一緒にフェアトレードのイベントに参加したこともある。また、イオンリテールが開発した張り替え可能なビニール傘に、「fururi（ふるり）」と命名したのはユネスコ部の部員。名付け親の山崎紀奈里さん（18）は当時をこう振り返る。



© Rika Usami



© Rika Usami

「昨年、学校にイオンリテールの方がフェアトレードについて講演しに来たんです。そのときに、カンボジアで傘を製造し、売り上げの一部を現地に寄付するプロジェクトの話を聞きました。私はちょうどユネスコのカンボジアスタディツアーから帰ってきたばかりだったので、何かできないか聞いたことがきっかけで、傘のプロジェクトに関わるようになりました」

山崎さんは幼い頃から海外に興味があり、14年に岡山でユネスコ大会があることを知り、ユネスコ部のある岡山一宮高校へ入学した。ユネスコ大会ではボランティアスタッフとして海外ゲストをアテンドし、会議全体を見ることができた。

「同じ世代の人も積極的に発言していて、すごく刺激を受けました。高校時代は海外にあちこちに行けたので、これからは日本のことにも目を向けたいです。大学に入ったら、“グローバル”な視点で勉強を続けて行きたい」と話す。

「岡山モデル」の特徴の一つは、学校というオフィシャルな教育現場だけでなく、公民館がESD活動の拠点となっている点だ。公民館は、もともとは第二次世界大戦後、住民が教養や文化を学ぶ場として国が設置を奨励したもので、1949年に法制化された施設。現在、岡山市内には学区ごとに37カ所あり、市の職員が各公民館に配置されている。2007年には、他のアジアの諸国のCLC（Community Learning Center）と連携し、“公民館サミット in 岡山-地域づくりとESD推進-”が開催され、公民館とCLCの役割に関する「岡山宣言」が出された。以降、海外のCLCとの交流が続き、岡山市の公民館は世界のCLCとの架け橋となっている。

意欲的に活動する公民館が多い中、特にESDに熱心なのが京山地区の公民館だ。

岡山市京山地区ESD推進協議会会長の池田満之さん（57）は、この京山地区で生まれ育った。20年ほど前に京山公民館ができたとき、環境コンサルタントをしていたことから環境保護の立場で公民館やユネスコと関わるようになった。

「京山公民館には、ダンスや料理、英会話など市民主導のクラブが90近く、ESD活動など公民館主導の講座などが20近くあります。ESDの取り組みとしては、年2回の環境点検や、“ESDカフェ”というオープンな会議、留学生と交流する“フレンドリー京山”、京山地区の伝統や記憶を残すための映画製作、年1回の“ESDフェスティバル”の開催などがあります」

京山地区の公民館の取り組みの一つの成果としてあげられるのは、観音用水「緑と水の道」だ。07年、「市長と語る会」で地元の中学生が「ヒートアイランド現象で暑い。緑と水を整備し、快適な文教地区にして欲しい」と提言したことがきっかけで、町内会や公民館、市のESD推進課などが環境整備に向けて動き出した。そして14年、およそ400mの道が整備され、美しい散歩道が生まれた。道路脇の植物なども含め、道路の管理・運営は住民主導で行っているという。



© Rika Usami



© Rika Usami

「ESD活動は持続可能な社会にするために取り組んでいます。だから、ただ単に学ぶだけではなく、実際に実現していくことが大事です。地元の住民と行政が一体となることが必要不可欠なのです」

池田さんはそう話す。目下の課題はリーダーを育てること。ESDに関わる人は増えたが、活動の中核になっていくリーダーがいなくては、“持続不可能”だ。その対策として、池田さんらは10年前に「ESDフェロー」という制度を作った。

「ESDについて学んだ人に認定証を発行するようにしたんです。目標は、京山地区で年間1000人のフェローを育成すること。つまり、5年間で5000人。地区の人口が2万5000人なので、5年間で人口の10%がフェローになる計算です。全体の10%の人の意識が変われば、社会に影響が波及しますから。ESDが目指しているのは“社会変革”なのです」

できることから少しずつ、持続可能な社会へ……。岡山市が取り組む“ホール・シティ・アプローチ（whole city approach）”は人々を、そして社会を確実に変えている。“岡山モデル”が世界に広がれば、それこそ地球全体が変わる日が来るかもしれない。

連絡先：ユネスコ本部 E S G 課

Contact: UNESCO Education Sector,
Section of Education for Sustainable Development and Global Citizenship

esd@unesco.org

<http://en.unesco.org/themes/education-sustainable-development>